

NEWS RELEASE

2008年5月12日
コベルコクレーン株式会社

コベルコクレーン 2008年3月期 決算概要

【2007年度の概況】

海外のクレーン市場は、旺盛なエネルギー関連投資を継続する中東が牽引する中で、サブプライム問題の影響で景気の下降傾向が見られるものの依然クレーン需要が旺盛な北米、造船業の活況により需要が引続き好調な韓国、インフラおよび産業基盤の整備により新車需要の拡大が続く東南アジア、堅調に推移する欧州など世界的に好調さを持続しています。

また、国内のクレーン市場においては、民需の拡大による仕事量の増加、中古機の海外輸出による国内ストック台数の減少、老朽化した機械の入替えなどで、引続き大幅な需要拡大傾向にあるといえます。

このような環境の下、当社は、世界的なクレーン需要の拡大を確実にとらえて、国内および海外の主要エリアで販売台数を大幅に伸ばすとともに、将来へ向けた事業基盤の整備に取り組みました。

- ①中東・北米・東南アジアなど重点取組地域への販売促進
- ②更なるラインナップ強化に向けた新機種の開発推進
- ③マニトワック社・タダノ社との連携による収益力拡大
- ④世界需要拡大に対応した更なる生産能力増強
- ⑤将来のリセッションに備えた事業基盤整備

これらの取り組みにより、当期のクレーン新車販売台数(全クレーンメニューの総台数)は約850台を達成し、前年度比で約16%の増加となりました。(07年度の新車販売台数は約730台)

特に中東・北米・ならびに日本を含めたアジア地域における販売台数の拡大が、収益面でも大きく貢献しました。また、クローラクレーンにおいては、積極的なグローバル展開の推進により、海外向けの売上比率は、台数ベースで80%近くまで達しております。

これらの結果、コベルコクレーンの2008年3月期(2007年4月～2008年3月)の業績は、連結の売上高で前年度比約1.3倍、経常利益で前年度比約1.8倍の収益を確保することができました。

<2008年3月期の実績>

[単位:百万円、()内は前年度比]

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2008年3月期	71,231 (+26.3%)	9,289 (+79.6%)	9,143 (+84.4%)	5,282 (+77.8%)
	2007年3月期	56,407	5,172	4,957	2,971
単体	2008年3月期	70,843 (+30.8%)	8,639 (+97.3%)	8,949 (+113.8%)	5,242 (+113.6%)
	2007年3月期	54,181	4,379	4,185	2,454

連結の売上高は国内向けが256億円(前年度比+20.8%)、海外向けが456億円(同+29.5%)となり、全体としては712億円(同+26.3%)となりました。また、財務面においても、グループのキャッシュフロー改善など更なる健全化に取り組みました。

【2007年度の事業別状況】

■ 海外市場

需要拡大傾向が続く海外市場においては、更なるグローバル展開を目指し以下の取り組みを行いました。

豊富なオイルマネーを背景に鉄道や空港、LNG精製設備の建設などのメガプロジェクトが続く中東市場においては、販売要員の増強および新規代理店の設定など販売体制の強化を図り、中東向け需要を確実にとらえて大幅に販売台数を伸ばすことが出来ました。また、部品在庫販売に向けた取り組みを開始し、サービス体制の強化も図りました。

住宅投資に減速感が出ている米州市場においては、風力発電などの環境・エネルギー関連投資やハイウェイ整備の投資などが引続き旺盛で、依然としてクレーン需要は拡大傾向にあります。この好景気をとらえて、代理店・サービス流通網などの拡大を図り、引続き販売台数を伸ばしました。

加えて、欧州地域においても、大手コンストラクターやレンタル会社およびエネルギー関連業界への積極的な受注活動や連携強化により、欧州圏内外の需要も確実に取り込み、引続き好調さを維持することが出来ました。

インフラおよび産業基盤の整備により新車需要の拡大が続く東南アジアでは、昨年6月に設立した販売子会社(コベルコクレーンサウスイーストアジア)も初年度黒字を達成するとともに、流通網強化を図り、拡大する需要を確実にとらえて販売台数を大きく伸ばすことが出来ました。

更に、韓国、インド、豪州など、中国を除く殆どの世界主要エリアで新車販売の好調を維持することが出来ました。

昨年3月に販売開始した550トンぶり超大型クローラクレーンの販売も好調で、着実に販売台数を伸ばすとともに、収益面でも大きく貢献致しました。

また、リセッションに備え、将来的に中東などで大量に出回ることが予想される中古機を扱う専門子会社(コベルコクレーントレーディング)を本年4月に設立致しました。

■ 米国マニトワック社とのアライアンス

クローラクレーンのOEM供給については、引き続き順調に推移し、前年度比約1.4倍の販売台数を確保することができ、収益面でも大きく貢献致しました。また、更なる生産性向上や開発効率化などを図るべく、連携強化を引続き検討しております。

更にマニトワッククレーングループ社よりOEM調達しているオールテレーンクレーンも確実に市場浸透を行いました。

■ 国内市場

クローラクレーン新車市場においては、需要が前年度比25%増と好調に推移し、当社もこの新車需要の拡大をとらえて販売台数を着実に伸ばし、トップシェアを維持することができました。

ラフテレーンクレーン市場においては、前年度比23%増と引続き大きく需要が伸び、好調に推移しました。当社は、ホイールクレーンビジネスの更なる強化に向け、近年の顧客ニーズに対応するシティコンシャスクレーンの新モデル、パンサーX(エックス)250の開発を推進しました。この新モデルは、本年6月1日より販売を開始致します。

生産面においては、国内の需要拡大および海外の旺盛な需要や受注拡大への対応を目指して、取引先の協力のもと、調達能力を強化し、生産面では、ジャストインタイム生産の導入に着手し、リードタイムの短縮、生産効率アップを図り、積極的な増産対応に取り組みました。その結果、販売台数の拡大にも大きく貢献致しました。

サービス面においては、遠隔稼働管理システムKCROSSを開発、本年4月より販売開始し、顧客満足度の向上を図るとともに、サービス体制の変革にも取り組みました。

また、カスタム対応力強化を目指し、専門子会社(KCテクノサービス)を4月に設立致しました。

■ タダノ社との提携関係

ラフテレーンクレーンについて、小型機種本体のOEM供給および大型機種の走行体(キャリア部)の製造を委託しているタダノ社との提携関係においても、国内外の需要好環境の中、有効な提携関係を維持することができました。今後も引続き緊密な協力関係を継続していきたいと考えております。

【今後の重点課題と2008年度の見通し】

08年度は、国内市場が引続き拡大傾向にあり、また、中東のメガプロジェクトなどの建設投資が依然好調に推移することから、世界的なクレーン需要は、不透明ながらも引続き好調に推移すると予想されます。しかし、不安定な為替動向に加え、鋼材・原油の高騰は留まることを知らず、これを背景とする購入資材費のアップ、世界的な活況を背景とする調達部品の入手性悪化などの収益圧迫要因が引き続き懸念されます。

このような事業環境のなか、08年度については更なる販売台数の拡大により、大幅な増収を見込んでおります。(全クレーンメニューの総台数で07年度比 +約250台の1,100台見込)

また、中期計画の最終年度として下記の重点課題に確実に取り組むことで、中期テーマである「クレーン事業の再構築」に向けて体質強化の集大成を図るとともに、将来のリセッションを見据え、ナビゲータを利用した定期情報収集や具体的行動計画策定など、予知活動と対策準備の両面から、引き続き更なる基盤強化に取り組んでまいります。

<重点取り組み課題>

- 更なる生産・出荷の最大化と安定生産体制の強化とコストダウンの実行
- 提携パートナーとの協力体制の継続による収益拡大
- 国内外の流通整備および新興市場での販売体制整備
- シティコンシャスクレーン新モデルの早期市場浸透策実行によるホイールクレーンビジネス強化
- ライフサイクルビジネス強化に向けた中古車会社事業運用体制の早期確立
- 将来のリセッションを見据えた基盤強化と次期経営計画の構築

<2008年度の見通し>

{単位:百万円、()内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	93,000 (+30.6%)	9,500 (+2.3%)	9,300 (+1.7%)	5,500 (+4.1%)
単体	83,500 (+17.9%)	7,700 (△10.9%)	8,000 (△10.6%)	4,700 (△10.3%)

* 2008年度における為替レート前提: 1米ドル=105円、1ユーロ=155円

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

■会社概要

社名	コベルコクレーン株式会社		
英社名	KOBELCO CRANES CO.,LTD.		
創立	2004年4月1日		
本社所在地	東京本社:東京都品川区東五反田2-17-1	代表	03-5789-2130
資本金	63.8億円 (株)神戸製鋼所 100%		
代表取締役	丹野 宜弘(たんの よしひろ)		
事業内容	建設機械の開発、生産、販売並びにサービス		
ホームページ	http://www.kobelco-cranes.com		

平成20年3月期 決算業績概要

会社名 コベルコクレーン株式会社
 代表者 代表取締役社長 丹野 宜弘
 問合せ先責任者 取締役 経営企画部長 砂河利文 TEL:03(5789)2130
 親会社 株式会社神戸製鋼所(当社株式の保有比率:100%)

1. 平成20年3月期の連結業績(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
20年3月期	71,231	9,289	9,143	5,282	50,898 38
19年3月期	56,407	5,172	4,957	2,971	28,624 20

(2) 連結財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	一株当たり 株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期	49,935	28,215	56.5	271,825 30
19年3月期	41,945	24,157	57.6	238,350 11

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期	1,417	△611	△293	3,099
19年3月期	4,274	△1,387	△1,338	2,586

2. 平成20年3月期の個別業績(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
20年3月期	70,843	8,639	8,949	5,242	50,502 91
19年3月期	54,181	4,379	4,185	2,454	23,649 82

(2) 財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	一株当たり 株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期	48,881	27,508	56.3	265,012 63
19年3月期	40,570	23,493	57.9	230,370 50

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期	275	△747	△187	77
19年3月期	3,805	△2,218	△1,161	736

3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
連結(通期)	93,000	9,500	9,300	5,500
個別(通期)	83,500	7,700	8,000	4,700